

※本校の取組が紹介されました。

尾 宇宙から地球見つめる 上 上平北小 天文学者の面白講演に熱中

上尾市立上平北小学校の電波望遠鏡「アルマ望
で2月9日、国立天文台「遠鏡」などに携わる阪本
と東大の教授で、小惑星 成一さんが、4、5、6年生
探査機「はやぶさ」や南 に宇宙について講演しま
米チリにある世界最大級した。



阪本教授(右)に次々質問する児童たち

阪本さんの専門は、電
波望遠鏡などで宇宙を観
測する電波天文学。最初
に太陽の色を児童に尋ね
ると、「赤」「黄色」と
の答えに、「本当？ちゃ
んと確認した？白い紙が
白く見えるんだから白で
しょ」と科学者として否
定します。

また、月面着陸に成功
した探査機「SLIM」
や、月面のあらゆる懸案
件に対応するため開発さ
れた様々な形の月面探査
車(ローバー)を紹介。
「本当は猫型ロボットが
最強だけれど」と笑いを
交えた解説で、子どもた
ちは宇宙開発の面白さと
最前線を学びました。

そして、月に人が住め
るのかを検証。空気や水
や食料は無く、放射線や
隕石にさらされ、温度は
昼が110度、夜は氷点
下170度の過酷な環境
だと説明します。水は今
も宇宙船内で宇宙飛行士
の尿が飲用に再利用さ
れ、宇宙食としては人間
と食料が競合しないカイ
コを食べるための研究が
進んでいると語られる
と、児童たちは「ええ
っ」と悲鳴を上げます。

「火星で農業ができる
なら、砂漠でもできる」
と地球に目を転じる阪本
さん。また、宇宙船では
宇宙飛行士同士がけんか
をしていたらみんな死ん
でしまうとも話し、「僕ら
って宇宙船に乗っている
ようなものでしょ。みん
なで地球人としてどうす
ればいいのか考えて。期

待っています」と語りか
けました。
参観した保護者も終始
大笑いの面白講演会。会
場を後にする講師に、子
どもたちは目を輝かせて
大きな拍手を送ります。
「先生は面白い方で、宇
宙に興味がありました」
と6年生の木下朝日君。
伊藤美陽さんは「水や昆
虫食の話にびっくり。私
たちは地球に対してマナ
ーが良くなかったと反省
しました」と笑います。
富田莉奈さんは「校長
先生に宇宙の話を教わっ
て、宇宙っていいなあっ
て興味を持ちました」と
話します。清水典子校長
自身、約10年前に阪本さ
んの講演で壮大な宇宙に
魅せられました。「子ど
も時代に聴きたかった
し、子どもや教職員にも
聴いてもらいたい。人生

が変わる人がいるかな」
と情熱的に語ります。
阪本さんも中学時代、
恩師の勧めで見たテレビ
番組「コスモス(宇
宙)」に、「うわ、これ
はずかい」と感動したこ
とが宇宙研究を志すきっ
かけだったと話します。
「当時は日本が惑星探査
をやると思っていなかっ
た」と振り返り、「子ど
もたちにはワクワクする
ことを自分で見つけて打
ち込んでほしいですね」
とエールを送ります。

休み時間も阪本さんは
児童の質問攻めに快く応
じ、土星のリングやブラ
ックホールなどについて
質問した諏訪義博君は、
「めっちゃわかりやすく
て楽しかった。阪本先生
ができない発見をした
い。先生を超えます」とや
る気に満ちていました。

期聴いてもらいたい。人生

が変わる人がいるかな」
と情熱的に語ります。
阪本さんも中学時代、
恩師の勧めで見たテレビ
番組「コスモス(宇
宙)」に、「うわ、これ
はずかい」と感動したこ
とが宇宙研究を志すきっ
かけだったと話します。
「当時は日本が惑星探査
をやると思っていなかっ
た」と振り返り、「子ど
もたちにはワクワクする
ことを自分で見つけて打
ち込んでほしいですね」
とエールを送ります。